

## 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名： 藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。(2022年5月1日現在)

## 1. 病院の機能及び医師等の配置

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕吸入薬指導に習熟した薬剤師2名、アレルギー研修会を受講した看護師23名 アレルギー勉強会等に参加している管理栄養士1名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	18	6	1
小児科	7	2	1
皮膚科	3	2	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	1	1	1

## 2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績 (令和3年度)			今後の予定 (令和4年度)		
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容
情報提供 講演会等	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「喘息児の保護者のつどい」Web講演 5名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「喘息児の保護者のつどい」Web講演 10名
	小児科	一般市民	市民公開講座「食物アレルギー」Web講演 50名	小児科	一般市民	名古屋市ぜんそく児のための水泳教室での講演 15名
	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供(令和3年度はコロナの影響で中止)	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症花粉症研究会(1回/年、30名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供
	耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度)、抗抗体製剤についての説明	耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会(2回/年、30名程度)、免疫療法、抗抗体製剤について
	眼科	瑞穂区医師会員	瑞穂区医師会学術講演会; Web開催「眼のアレルギーの話」	内科	一般市民	2022年8月20日 市民講座で気管支喘息の講演の予定である
	眼科	医師	群馬県眼アレルギー講演会; web開催 「アレルギー性結膜疾患の診断と治療・総合アレルギーセンターのとりくみ」	内科、耳鼻科、小児科、皮膚科、眼科など	医師、看護師、薬剤師、学生	アレルギー、免疫、その他医学の複数の科に関連する疾患・病態に関し定期的な勉強会を開催したいと検討中である
	眼科	薬剤師	第6回アレルギー研修会(愛知県薬剤師会); Web開催 「アレルギー性結膜疾患の診断と治療」			
	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	2021年11月10日第82回東三河疾患研究会にて間質性肺炎に関する勉強会をハイブリッドで開催 21名参加			
	内科	医師、看護師、薬剤師、学生	2021年11月10日 重症喘息フォーラムをwebで開催 約30名の参加			
皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎ガイドラインの概要				

	他	内科	一般市民	ホームページ上で1) 重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2) 気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っている (倫理委員会承認のもの)	内科	一般市民	ホームページ上で1) 重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2) 気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っており、これを継続していく予定である
					耳鼻科		好アレルギー研究会「酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について」(1回/年)
人材育成	研修会等	小児科	学校 教員	エピペン講習会 (年9回 280名)	小児科	学校 教員	エピペン講習会 (年10回 300名)
		内科	研修医	月に2回程度、免疫学の教科書を一緒に読み知識の向上を図っている	内科	学生	アレルギーに興味のある医師を対象に月に1回程度で勉強会を行っており継続していく。
		内科	学生	アレルギーに興味のある学生を対象に月に1回程度で勉強会を行っている			
	内科	医師	数カ月に一度、間質性肺炎の病理検討会を行っている	内科	医師	今後も間質性肺炎の病理検討会を定期的な開催予定である	
	他						
助言指導	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談 (年5回)	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談 (年6回)	
	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	
	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員継続	
	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員継続	

### 3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績 (令和3年度)	今後の予定 (令和4年度)
診療	重症な食物アレルギーの児に対して、加工品や少量のアレルゲンを含む食品を用いた治療を行うことで、患者やその家族の食生活の改善を目指した。	喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどアレルギー疾患全般に関して、患者の小児患者であることに重点をおき QOL を改善させる治療方針を進めていく。
	アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール (毎週土曜日)	アレルギー外来にてアレルゲン免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール (毎週土曜日)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>気管支喘息の重責発作の症例においても救急外来を經由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。</li> <li>アスピリン喘息症例で薬剤の誤投与が本年も認めれたが、関係部署と連携し、今後、極力生じないよう対策を検討した。</li> <li>重症喘息患者症で気管支サーモプラスティや生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している</li> <li>間質性肺炎 (びまん性肺疾患) では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している</li> <li>食物運動誘発アナフィラキシーに関して皮膚科と相談しながら診療している</li> <li>気管支喘息は耳鼻科的合併症が多いため、耳鼻科と相談しながら診療している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も 救急部と連携し診療にあたっていく。</li> <li>アスピリン喘息における誤投与が生じた症例を蓄積していき解析する予定である</li> <li>今後も継続予定である</li> <li>間質性肺炎 (びまん性肺疾患) においてデータを蓄積し解析を行っていく</li> <li>今後も他科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療をおこなっていく</li> </ul>

研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討</li> <li>・重症喘息で施行される気管支サーモプラスティにおける治療前後の呼吸機能の変化および喘息関連メディエーターの変動の検討</li> <li>・セレコックスによるアスピリン喘息患者における誘発例を論文報告した。(Volume 70, Issue 3, July 2021, Pages 401-403 Allergol Int. に掲載された) (IF: 5.836)</li> <li>・ANCA 関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。</li> <li>た。</li> <li>・当院では気管支サーモプラスティを施行しており、「低肺機能症例に施行した気管支熱形成術 (BT) の検討」というタイトルでアレルギーの臨床に投稿した。2021 年 9 月号に掲載。</li> <li>・アスピリン喘息における脂質メディエーターの変化の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続予定である</li> <li>・今後も継続予定である</li> <li>・今後もデータを集積していく予定である</li> <li>・2022 年 4 月号掲載予定である</li> <li>・今後もデータを集積していく予定である</li> </ul>
	食物アレルギーの新しい検査の一つである EXiLE 法にてソバアレルギー診断での有用性を検討し学会報告した。	EXiLE 法での食物アレルギー診断における有用性をさまざまな食物について検討していく。
	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－	スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－
	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）	PACI ON study（他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター）

#### 4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・当院ではすべての科で軽症から集中治療室管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、これを継続することで県民の生活の質の向上を図っていく</li> <li>・当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関する知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく</li> <li>・地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対する人材育成を引き続き行っていく</li> <li>・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、3次元構造の気管支上皮を作成しアレルギー・免疫の病態を探索していく</li> <li>・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく</li> <li>・引き続き地域の病院や他の拠点病院と連携して診断、治療を行っていく。</li> </ul>
--